

極東開発工業

適用範囲		モデル名		PY120 (A)-36	PY100-30-S	PT80-10	PT85-10
		吸吐弁形式	—	スイング	スイング	スイング	スイング
		主仕様最大吐出量	m ³ /h	120(85)	105(73)	80(55)	86(55)
		最大吐出圧力	MPa	4.6(6.6)	4.9(7.0)	11.8(8.3)	11.8(7.3)
		アーム最大地上高	m	35.6	29.8	<アーム無し>	<アーム無し>
		適用号機		96P010001～04P*****	09P030001～	92P000001～01P*****	07P030001～
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値			
作業装置	圧送	ピストンストローク回数	回/min	26±2	23±2	38±2	26±2
		ロータ回転数	回/min	—	—	—	—
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1400 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1489 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1670 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)
	かくはん装置	(作動油温度)	(℃)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)
		回転速度	min ⁻¹	34±3	31±3	31±3	32±2
		チェーンのたわみ	mm	—	—	—	—
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1400 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)
	真空ポンプ	(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1489 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1670 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)
		(作動油温度)	(℃)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)
		圧力設定値 (設定値到達時間)	MPa (min)	(—)	(—)	(—)	(—)
		圧力降下許容値 (保持時間)	MPa (min)	(—)	(—)	(—)	(—)
	ブーム装置	Vベルトのたわみ	mm	—	—	—	—
	シリンダ 自然降下量	ブーム (1) シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	—	—
		ブーム (2) シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	—	—
		ブーム (3) シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	—	—
		ブーム (4) シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	—	—
		ブーム (5) シリンダ	mm	—	—	—	—
		(測定時間) (作動計測条件) (作業装置姿勢)	(min) [図面No.]	(10) [図 No. 1]	(10) [図 No. 1]	(—) [—]	(—) [—]
	☆ブームシリンダ 作動時間	ブーム (1) 伸び	sec	125±10	60±15	—	—
		縮み	sec	90±10	95±10	—	—
		ブーム (2) 伸び	sec	150±10	65±10	—	—
		縮み	sec	120±10	75±10	—	—
		ブーム (3) 伸び	sec	115±10	80±10	—	—
		縮み	sec	200±10	95±10	—	—
	洗浄装置	ブーム (4) 伸び	sec	50±10	35±10	—	—
		縮み	sec	85±10	70±10	—	—
		ブーム (5) 伸び	sec	—	—	—	—
		縮み	sec	—	—	—	—
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(—)	(—)
		(作動油温度)	(℃)	(50±10)	(50±10)	(—)	(—)
	水ポンプ (配管洗浄用)	(作業装置姿勢)	[図面No.]	[図 No. 3]	[図 No. 3]	[—]	[—]
		吐出圧力	MPa	27.5±1	23.5±1	27.5±1	23.5±1
		油圧 水圧 飛距離	MPa m	4.9 —	6.6 —	6.5 —	10.5 —
		吐出圧力	MPa	—	—	—	—
	空圧機	(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1400 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1489 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1670 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)
		(作動油温度)	(℃)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)

☆印：新車基準値を表す（参考値）。

コンクリートポンプ車

PY125-36A	PY125-36A (コンクリート)	PY135-28-H	PY135-26-H	PY75B-17	PY120-30	PT110-10	PY90-17
スイング	スイング	スイング	スイング	スイング	スイング	スイング	スイング
124(90)	124(90)	135(100)	135(100)	78(55)	121(87)	100	90(65)
4.9(7.0)	4.9(7.0)	8.5(13.3)	8.5(13.3)	3.2(4.9)	4.9(7.0)	13.3	5.9(8.5)
35.6	35.6	27.9	25.8	16.6	29.8	<アーム無し>	16.6
11P12-3010～	11P12-3010～	14P02-0010～	13P04-0007 13P06-0024 13P11-0014	13P10-0004～	12P06-0007～	15P03-0007～	15P06-0016～
検査基準値							
24±2	24±2	26±2	26±2	36±2	27±2	26±2	39±2
—	—	—	—	—	—	—	—
(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1489 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1489 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (1654 ⁺⁰ ₋₄₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (1990 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (1739 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1791 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (1654 ⁺⁰ ₋₄₀) (50±10)	(1900 ⁺⁰ ₋₅₀) (1875 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)
31±3	31±3	33±3	36±3	31±3 20・チェーン中央	31±3	33±3	34±3 20・チェーン中央
—	—	—	—	—	—	—	—
(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1489 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1489 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (1654 ⁺⁰ ₋₄₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (1990 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (1739 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1791 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (1654 ⁺⁰ ₋₄₀) (50±10)	(1900 ⁺⁰ ₋₅₀) (1875 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)
—	—	—	—	—	—	—	—
(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
—	—	—	—	—	—	—	—
(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
—	—	—	—	—	—	—	—
0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 — —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 — —	— — — — —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 — —
(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(—) (—) [—]	(10) (—) [図 No. 1]
60±10 120±10	75±10 105±10	65±10 70±10	60±10 70±10	70±10 70±10	60±15 95±10	— —	70±10 70±10
140±10 140±10	70±10 70±10	90±10 75±10	70±10 70±10	55±10 70±10	— 75±10	— —	55±10 65±10
135±10 135±10	60±10 75±10	60±10 90±10	45±10 90±10	65±10 90±10	80±10 95±10	— —	55±10 85±10
50±10 90±10	55±10 60±10	35±10 55±10	30±10 40±10	— —	35±10 70±10	— —	— —
—	—	—	—	—	—	—	—
(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(—) (—) [—]	(1900 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]
23.5±1 6.6 —	23.5±1 6.6 —	23.5±1 10.5 —	23.5±1 10.5 —	27.5±1 4.9 —	23.5±1 6.6 —	23.5±1 10.5 —	23.5±1 6.6 —
—	—	—	—	—	—	—	—
(1200 ⁺⁰ ₋₅₀) (992 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1200 ⁺⁰ ₋₅₀) (992 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1380 ⁺⁰ ₋₅₀) (1141 ⁺⁰ ₋₄₀) (50±10)	(1150 ⁺⁰ ₋₅₀) (1141 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (1739 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1791 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1380 ⁺⁰ ₋₅₀) (1141 ⁺⁰ ₋₄₀) (50±10)	(1900 ⁺⁰ ₋₅₀) (1875 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)

極東開発工業

適用範囲		モデル名		PY120(A)-36	PY100-30-S	PT80-10	PT85-10
		吸吐弁型式	—	スイング	スイング	スイング	スイング
		最大吐出量	m ³ /h	120(85)	105(73)	80(55)	86(55)
		最大吐出圧力	MPa	4.6(6.6)	4.9(7.0)	11.8(8.3)	11.8(7.3)
		フレーム最大地上高	m	35.6	29.8	＜フレーム無し＞	＜フレーム無し＞
		適用号機		96P010001～04P*****	09P030001～	92P000001～01P*****	07P030001～
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値			
油圧装置	☆油圧機器 セット圧	主油ポンプ油圧	MPa	27.5±1	29.4±1	27.5±1	29.4±1
		弁シリンダ油圧	MPa	27.5±1	13.5±1	27.5±1	29.4±1
		かくはんモータ油圧	MPa	13.7±1	13.7±1	13.7±1	13.7±0.5
		ブーム油圧	MPa	28.4±1	29.4±1	—	—
		ACCガス封入圧力	MPa	—	7.8±1	7.8±1	7.8±1
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1400 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)
車体・安全装置	☆旋回ベアリング 取付けボルトの締付け	外輪取付ボルトの締付トルク	N・m	—	—	—	—
		内輪取付ボルトの締付トルク	N・m	—	—	—	—
		取付ボルトの交換基準	年	—	—	—	—
	☆旋回作動速度	旋回速度	sec	150±10	135±15	—	—
		(旋回作動角度)	(度)	(370・限定旋回)	(370・限定旋回)	(—)	(—)
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(—)	(—)
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1489 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)	(—)	(—)
		(作動油温度)	(℃)	(50±10)	(50±10)	(—)	(—)
	☆シリンダ 自然伸縮量	各垂直シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下
		(測定時間)	min	(10)	(10)	(10)	(10)
		(作業装置姿勢)	[図面No.]	[図 No. 2]	[図 No. 2]	[—]	[—]
				1) 油圧ポンプは斜板を最大吐出量の状態にすること。 2) 標準圧送システムの場合について示す。 3) 自動給油は給油されていることを確認すること。 4) シリンダ耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。			
特記事項						特記事項4) 適用外	
				5) フーム制振装置 ACC ガス封入圧力 13.8MPa	5) フーム制振装置 ACC ガス封入圧力 14MPa		

☆印：新車基準値を表す（参考値）。

コンクリートポンプ車

PY125-36A	PY125-36A (KONT 付)	PY135-28-H	PY135-26-H	PY75B-17	PY120-30	PT110-10	PY90-17
スイング	スイング	スイング	スイング	スイング	スイング	スイング	スイング
124(90)	124(90)	135(100)	135(100)	78(55)	121(87)	100	90(65)
4.9(7.0)	4.9(7.0)	8.5(13.3)	8.5(13.3)	3.2(4.9)	4.9(7.0)	13.3	5.9(8.5)
35.6	35.6	27.9	25.8	16.6	29.8	＜フレーム無し＞	16.6
11P12-3010～	11P12-3010～	14P02-0010～	13P04-0007 13P06-0024 13P11-0014	13P10-0004～	12P06-0007～	15P03-0007～	15P06-0016～
検査基準値							
29.4±1	29.4±1	34.3±1	34.3±1	27.5±1	29.4±1	34.3±1	29.4±1
29.4±1	29.4±1	18.6±1	18.6±1	27.5±1	29.4±1	18.6±1	29.4±1
13.7±1	13.7±1	13.7±1	13.7±1	10.8±1	13.7±1	13.7±1	13.7±1
34.3±1	34.3±1	34.3±1	27.5±1	27.5±1	29.4±1	—	27.5±1
—	—	7.8±1	7.8±1	—	—	7.8±1	—
(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1900 ⁺⁰ ₋₅₀)
(1489 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1489 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1654 ⁺⁰ ₋₄₀)	(1990 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1739 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1654 ⁺⁰ ₋₄₀)	(1875 ⁺⁰ ₋₅₀)
(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)
—	—	—	294±9.8	325.6±9.8	—	—	325.6±9.8
—	—	—	294±9.8	325.6±9.8	—	—	325.6±9.8
—	—	—	特記 5)	特記 5)	—	—	特記 5)
135±10	70±10	155±15	165±15	70±10	135±15	—	65±10
(370・限定旋回)	(370・限定旋回)	(370・限定旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(370・限定旋回)	(—)	(360・全旋回)
(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(—)	(1900 ⁺⁰ ₋₅₀)
(1489 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1489 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1654 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1990 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1739 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)	(—)	(1875 ⁺⁰ ₋₅₀)
(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(—)	(50±10)
0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下
(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)
[図 No. 2]	[図 No. 2]	[図 No. 2]	[図 No. 2]	[図 No. 2]	[図 No. 2]	[—]	[図 No. 2]
1) 油圧ポンプは斜板を最大吐出量の状態にすること。 2) 標準圧送システムの場合について示す。 3) 自動給油は給油されていることを確認すること。 4) シリンダ耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。							
			5) 締付トルクを下回る緩みが1本でもあればそのベアリング輪(外輪又は内輪)のボルト全数交換。			特記事項4) 適用外	5) 締付トルクを下回る緩みが1本でもあればそのベアリング輪(外輪又は内輪)のボルト全数交換。
6) フーム制振装置 ACC ガス封入圧力 13.8MPa			6) フーム制振装置 ACC ガス封入圧力 14MPa		6) フーム制振装置 ACC ガス封入圧力 14MPa		

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	図-1 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	図-2 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	図-3 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	図-4 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	図-5 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	図-6 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)